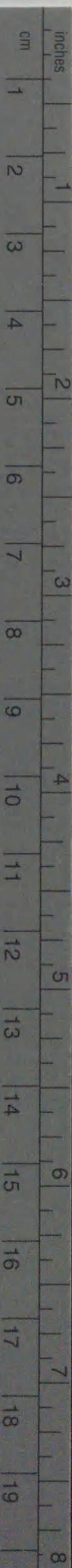


Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak

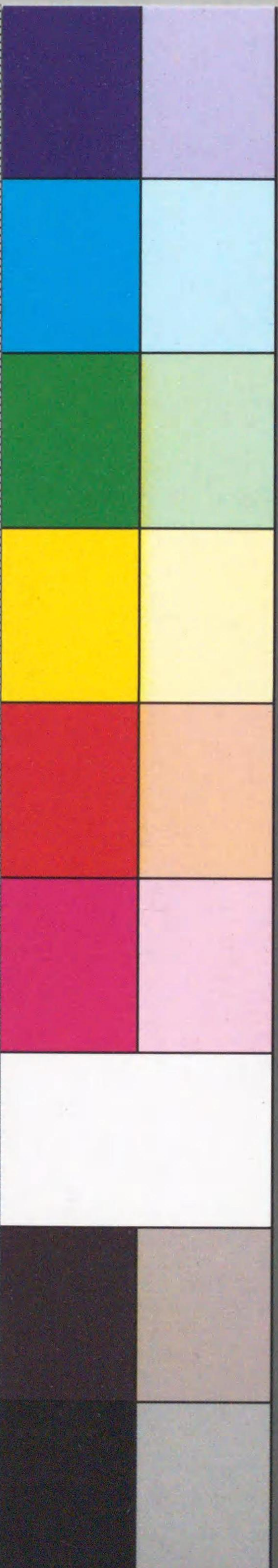
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



Kodak Color Control Patches

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

© Kodak, 2007 TM: Kodak



機織彙編

三

586.7

0993k





586.7  
0993k



寄贈  
下鳥正憲

562868

機織彙編卷之三

機口傳

夫機と織る手前ハ已と正一腰板と腰を考  
をる事ハ馬と馳るガ如ク我心と膝下丹田  
と治め耳目手足ハ已ガ氣ノ預け無心にして有  
心ヲ如ク孟子曰志氣之帥也氣體之充也夫志至  
焉氣次焉故曰持其志無暴其氣此意也以て工夫  
して織べし蹈行も劍術のさそくの如く其働く  
処小躰を裁て躰と足の不離して心氣力一同ノ  
業と働すべきあり 杆を投る事ハ矢を放して飛  
す如く放れ素直なれば其矢百發百中ノ疑ガ  
如く手と肉と離大事あり 杆を取る手ハ居合と  
扱ガバとく登系よめとらさる極ノ素直と扱べ



一是居合と技と刀と鯉口と刀の身のさへらび  
 くて素直と技と同一後ハ木太刀と歩が如く心  
 小高わりて又手の肉不辱探と残心と位と水次  
 の幾ある心と渡一一度毎と不成極とすべし  
 花櫛の打と投るハ花樓とわつと通系の曳綾と  
 取る者と劔術とおとの如く心めて遅速と不厭  
 おとの業と志とがひ其間と見て程能く投べし  
 又花樓の上りて紋と引き綾と取る手の肉ハ弓  
 と索引するが如く和らうと釣合て締りよく弦  
 のたるまざる極と引べしとの肉は卵と拳が如  
 しくおろす時分も又弓と引て止るが如く心とん  
 と入ておろさざれば機織の志とる弦の如く通  
 系といと付或ハ岩竹とこきて馬系から来るこ

故に弓と索引する心持小取扱べし投扱ハすべ  
 て系へのそのをらぬようすべしををるハ白  
 機類ハあり幾ハ臍下へ力とあり撃とて真直と  
 赤附べし手先と力と入てお付る忍し又幾と  
 糸とておの志とらす幾と志とやくればめりとお  
 出すあり足ハ幾と一同とあろすべしおろしとハ  
 足と揚るもあり踏竹と踏たる足と揚れば綾取  
 下るあり惣て花樓とて通系と引幾と赤柄と投  
 ると踏竹と踏と足とおろすよほど拍子よく速  
 續して序破急の拍子自然と備れり其拍子と不  
 知ハ織物と光澤と又堅系時と切或村と織り  
 出す鍛錬ハ此不とあり織る人の父と花樓の  
 人ハ母とあり機織の堅系横系ハ子とあり父とれと



恵く母ふれと育い子弟各父母の自愛より依て  
の花機成就に抒發通糸し數ハ皆臣下よりして君  
不奉て其利せざる者あり名譽の織人機を織れ  
と其拍子よ感して黄鳥轉と云天地より男の物  
串く物く其感應なきよりまゝとてや衣食ハ人  
身一日もせざるてかまへざる物なり

箴目よりの傳

箴ハ云とよと云ハ大概諸國四十枚あり又五  
十枚と云短くもわり糸ハ堅糸八十筋にて  
よと云りむ一目へ二本入るまれば是セ二丈五  
尺にて惣尺二百丈あり此目方生糸にて一丈二  
分積り最も右の糸ハ二本合せよる故は一丈二  
分にてハ四百丈あり依之百丈と目方三分づ

右の糸ハ繭七ツ附て取たる糸と糸と積たり  
又云け絹の箴ハ二十二よと是糸數繭七ツ附の  
糸にて千七百六十筋一疋の堅糸あり繭尺長六  
丈此惣尺万五百六十丈あり此糸目方三十一  
分六分八厘あり

箴目へ堅糸と入る傳

二重立と云ハ地糸一重片糸一重若又其向は花紋  
めれば別は織り堅糸の外よからと糸と一重入  
て三重藤へ巻あり

一ツ糸と云ハ箴一目へ糸一本つ入ると云なり  
一ツ入と云ハ箴一目へ二本つ入ると云あり四つ入  
と云ハ箴一目へ四本つ入ると云あり二枚入  
入平綾と成あり是ハ光僧素細と同一惣て地合



厚く平又織るふハ如比する幸あり又四ツ入ふ  
 して後取四枚へ糸一本ツ通し箴一目の内小  
 綾四ツづ組ハ小隻綾と云あり箴と目へ二本  
 ズ入るハ三えん一と云あり箴一目へ五本づ入るハ  
 綸子地あり諸糸綾と云ハ箴一目へ二本ツ入る  
 也云

箴目之傳

一 蘇尺一寸小付八十枚是セ大概普通の上機と箴  
 と定む此箴ふてハ一寸二よとあり枚よ  
 一 尺幅の箴ハ二十よと成あり箴幅と指幅ハ  
 織強りいか大凡一尺二付五六分ツ強るなれハ  
 一 尺之指幅小織る時ハ箴一尺五六分小織つ  
 まり指一尺二成るあり指より幅のつまり多

少ありむ五六分の強りハ何指ふても通例のつまり  
 と知るべし横の太き指ハ幅つまり少し横の細  
 きハ幅の強り多し豎も太きハ強り少し豎の細ハ  
 つまり多と知るべきあり

箴柄

一 箴柄ハ蘇尺ふて一尺三寸の箴入る株よ仕立へ  
 一 是セ八寸幅の箴セ入て用る時ハ両方之明の  
 処へ落板を入るあり箴柄の目方ハ大概四百目  
 糸後よてよし是錦又糸錦の數の箴柄あり綸  
 子志け指紅地の縮杯織る箴柄も七十目又三百  
 目縹紗の箴柄ハ九百目位とむさや杯ハ二百目  
 前後ふてよし袴地などの地厚と織るハ五六百  
 目位之箴柄あり小倉織箴柄ハ七八百目より一



貫目位又縹紗々箴柄ハ鯨尺二尺三寸位より八  
 丈ハ九箴柄五百目位之大九箴柄の目方ハ同物  
 小てハ幅の狭き物と織る時ハ目方軽く又幅廣  
 き物ハ目方を軽くするあり一躰地厚の物ハ目方  
 を軽く地薄の物ハ軽く仕立るあり業の巧者ありハ  
 淨き自然と純粋ニ織合出来る事あり大概十ハ  
 十目より一貫目位迄あるものあり但し至て能く  
 締る織物ハ箴二ツ步又ハ三ツもあがり常ハ一ツ步  
 半あり又そつとよせる如く至心より織るあり  
 是ハ一疋小付目方五六十目位の落絹あり  
 一箴の高下ハ杼摺へ附加減あるべし箴釣ハ步附  
 て真並ある加減たるべし  
 一箴ハ堅糸と通るハ左右二尺二三寸の篠竹と

同一尺五六寸小下小臺と持て立て此竹と箴と  
 絡ひ止て箴通ると堅糸と引通べし此箴通と箴  
 の方へつさ出し向う一人箴通の糸かけて堅  
 糸と絡る時我前へ箴通と引く数度も同く一  
 て通あり

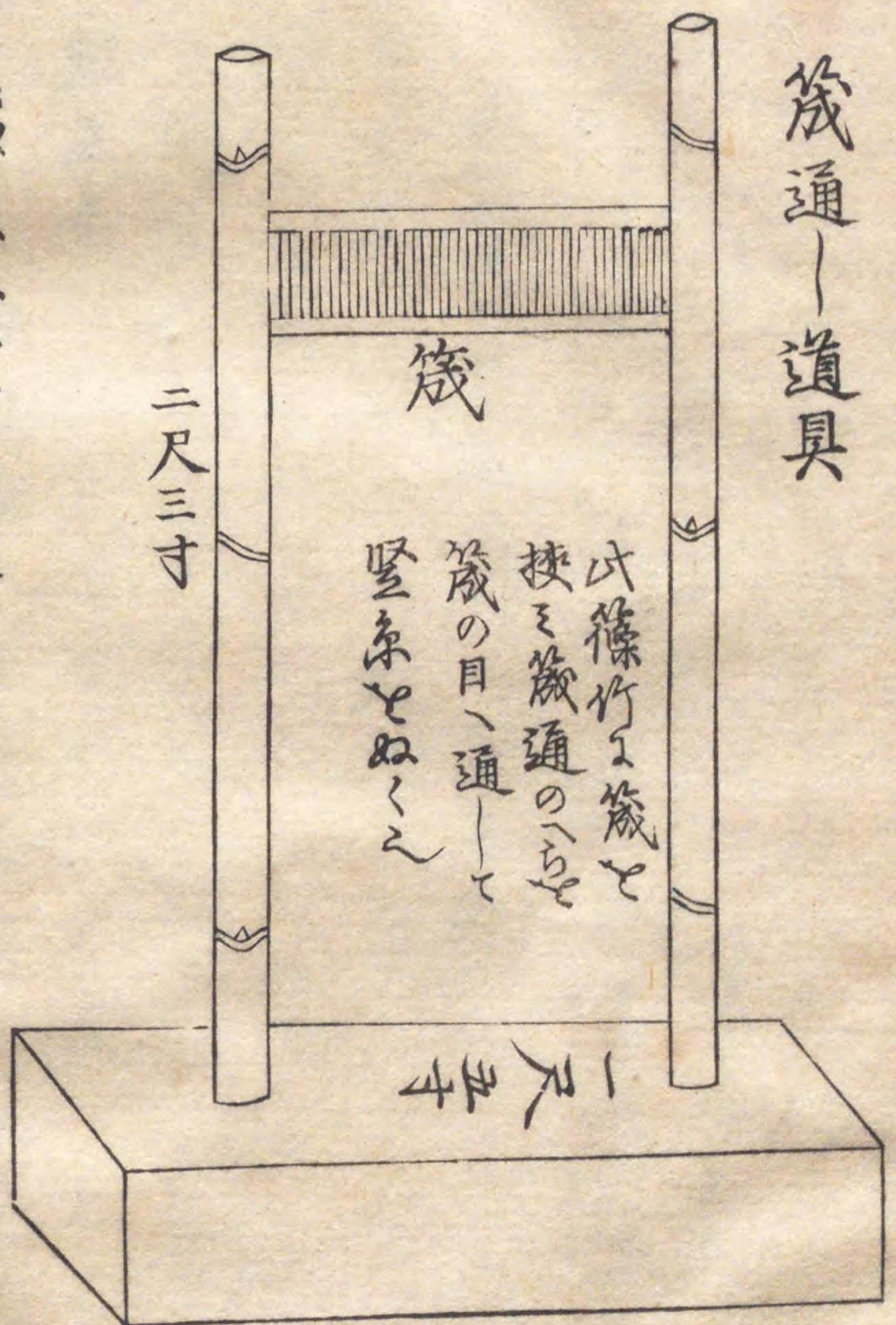
此処糸と絡て手前へ引ハ箴糸通るあり

箴通全圖

真鍮まがねより作る厚ハ九半紙三枚を位  
 してたたくす



箴通一道具



綾取へ堅糸通方

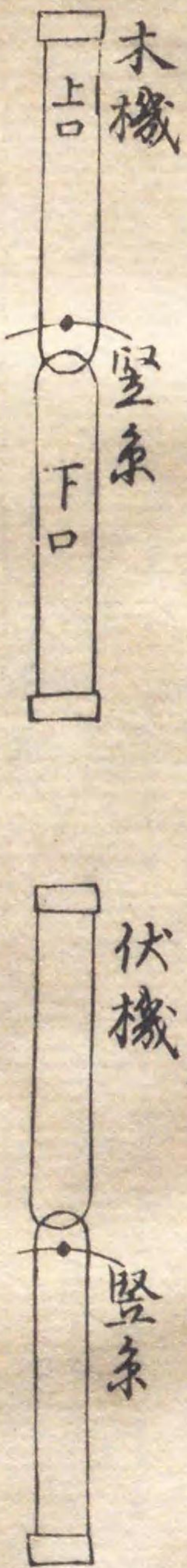
綾取二枚を平指に織る但しはぐひはへ糸を通さる



此ふつがひあり

つがひを糸を通たる図

二枚を木機伏機と成る時ハ四枚と成る是ハ木機ハ上口へ糸を通し伏機ハ下口へ糸を通し木を以て上る堅糸の糸を伏機を以て押ゆるなり

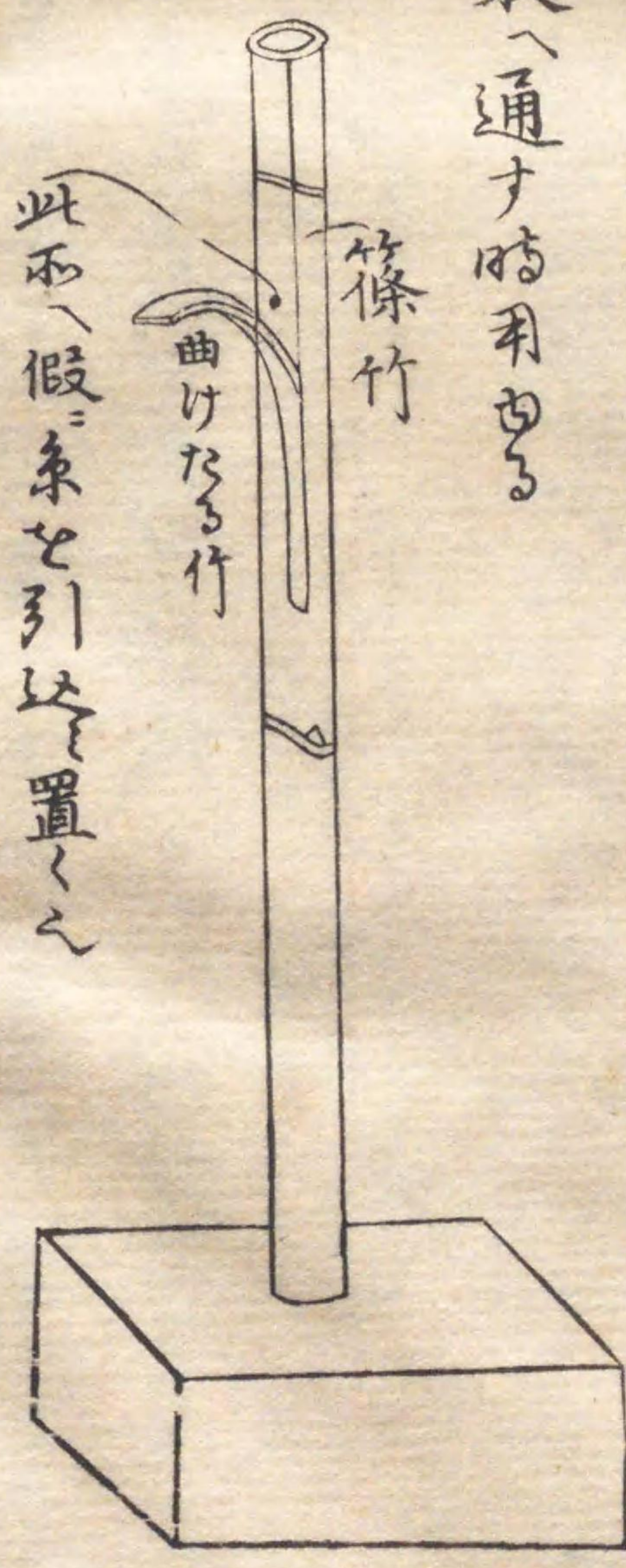


一綾取きうせよ木機一の上る時ハふぐせの二下る木機の二上る時ハ伏機の一上る之本はぐせはろくろを踏上る形りふぐせハ弓を釣て踏下る形り但しふぐせハ堅糸より一寸五ト多く弓へつり上げ置き踏きて下糸と平に成る積りはぐひはへ通す綾糸ハろくろを踏きて上下へ等分を踏むるに於てつがひ口の堅糸ハ箴より口のぬく糸を交する又本はぐせハ堅糸を箴へよく附よみし仕をするに此花紋を織る機の仕事あり

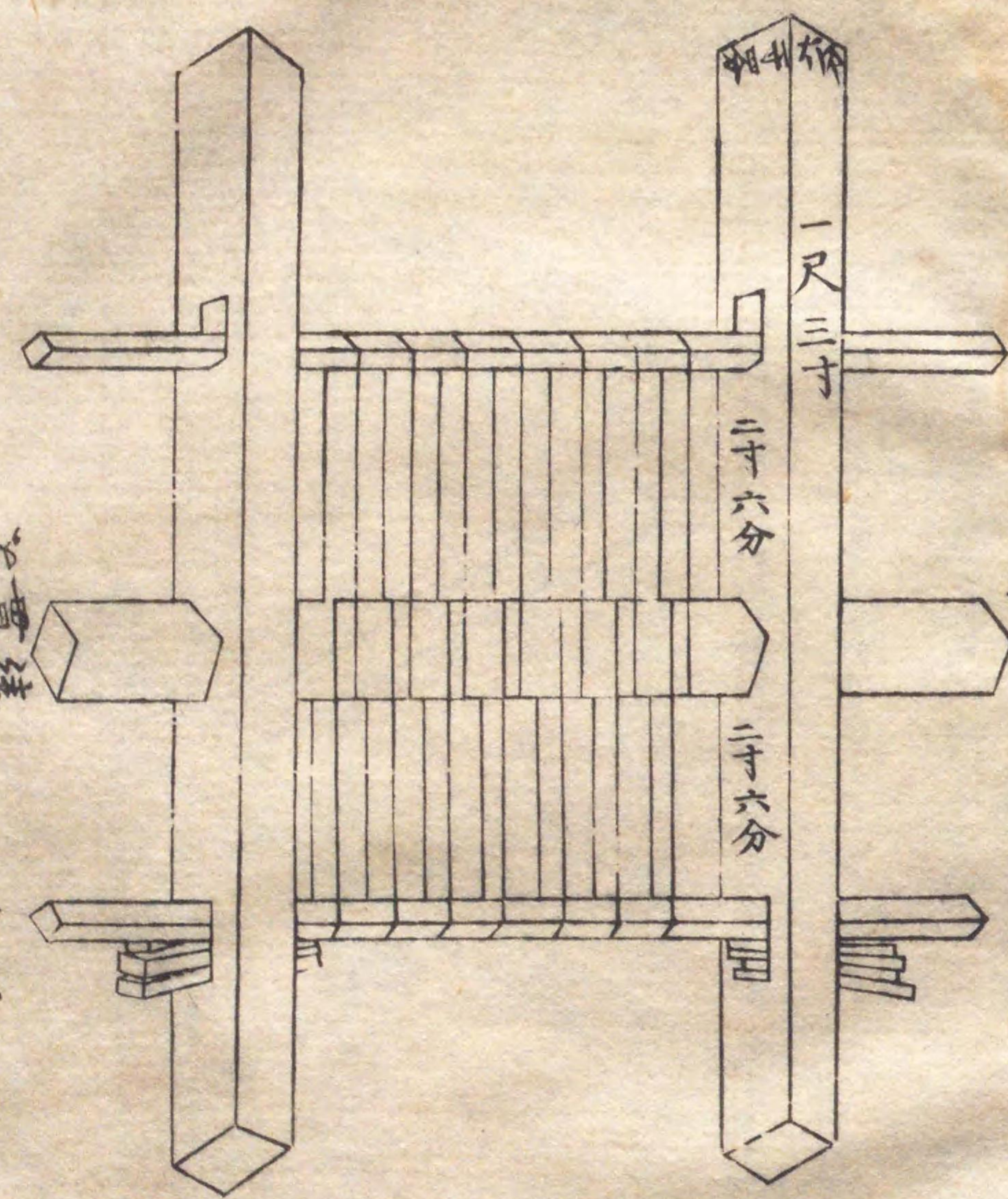


一 綾にハ大概箴一と位より箴かき糸へさ引れハ糸切  
 るより綾は多く引れハ箴めりく出来る  
 一 かせきこをせ付るより踏竹へ糸附方よりかせきより  
 綾糸へハ揃てて糸るかさせき方ハ穴へ通すより  
 一 踏竹の糸長さハ竹に附てよき加減に綾口を引て  
 竹の踏さまへ届く加減より綾糸引通し藤へ  
 巻き附る半道具わり花に図す

綾取へ通す時利由



綾取系組方并組臺之圖

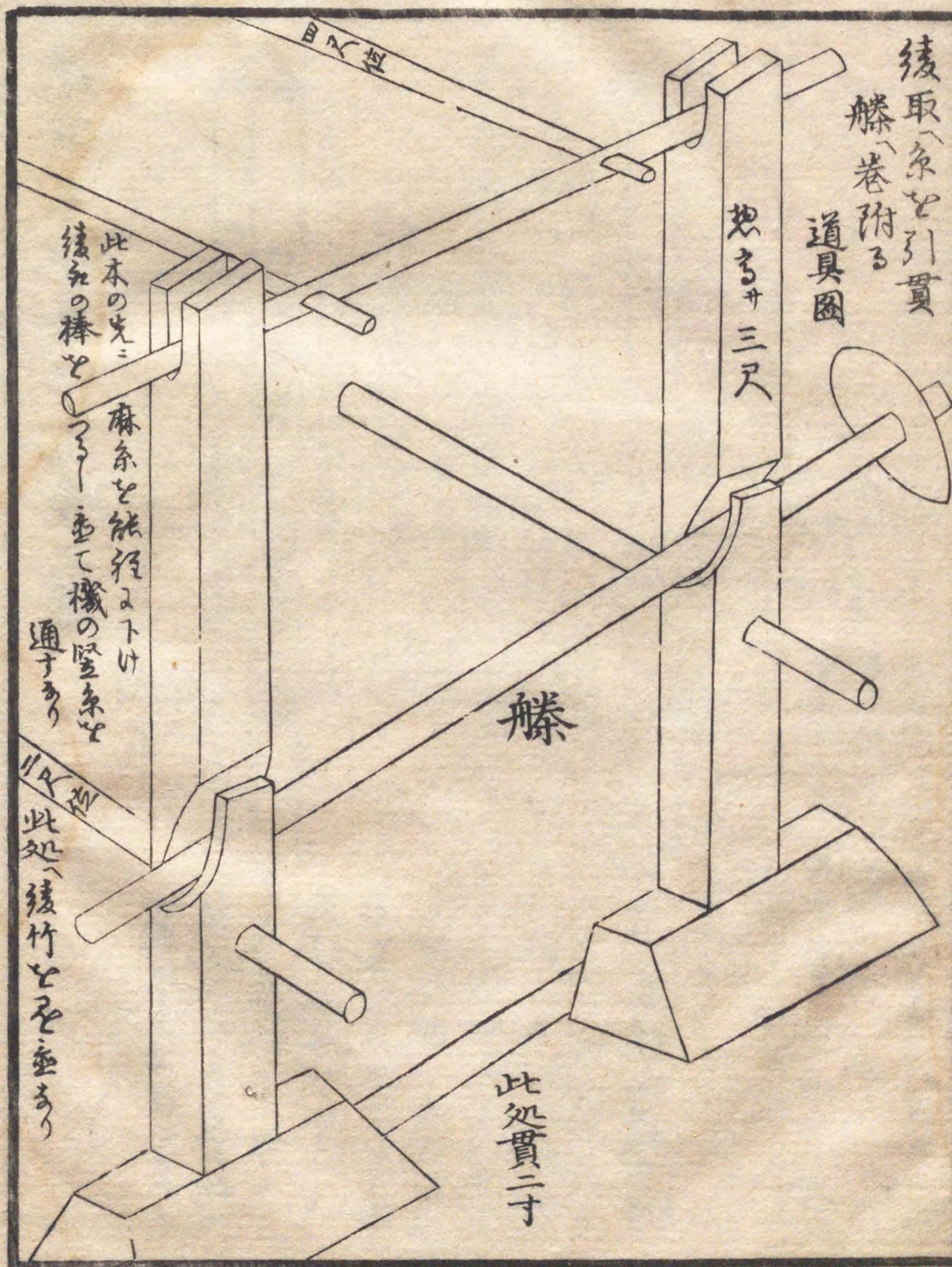


如圖綾糸と中の貫と  
 箴上下の角本の所へ  
 糸を付紙を張り  
 其後此箴を取て  
 糸を五本に分る板  
 とを引れ数と糸を引れ  
 より中の貫の所で  
 上糸下糸の二ひ遠の  
 のつは成振るを  
 るり木機伏機は

木機ハ上臺下臺より長さ八寸  
 五寸を懸るり  
 伏機ハ上下の臺より長さ八寸



綾取糸と引貫  
藤巻附る  
道具圖



花紋仕懸口傳

紋通糸と曲尺より一丈二尺折返して二筋一して仕をるお六尺とある

横經糸曲尺より二尺つ以外に壺糸ハ麻の疊糸より曲尺より六寸つ二切り輪糸結ひて付之

馬糸線尺より二寸五分一尺二寸五分但し一寸五分一して二尺五寸あり

岩糸線尺より六寸五分後一重より一尺三寸あり  
いや竹線尺より一尺一寸但し目方四例ありハ一本の

目方二女とトより三女迄又六例八例杯ハ一本のを目  
二女よりより又一例よりハ一本八九寸十分位は削り  
立て穴とめりあり是ハ岩糸と附る

一岩竹と糸と付糸と岩糸と云其壺へ引通す糸と馬



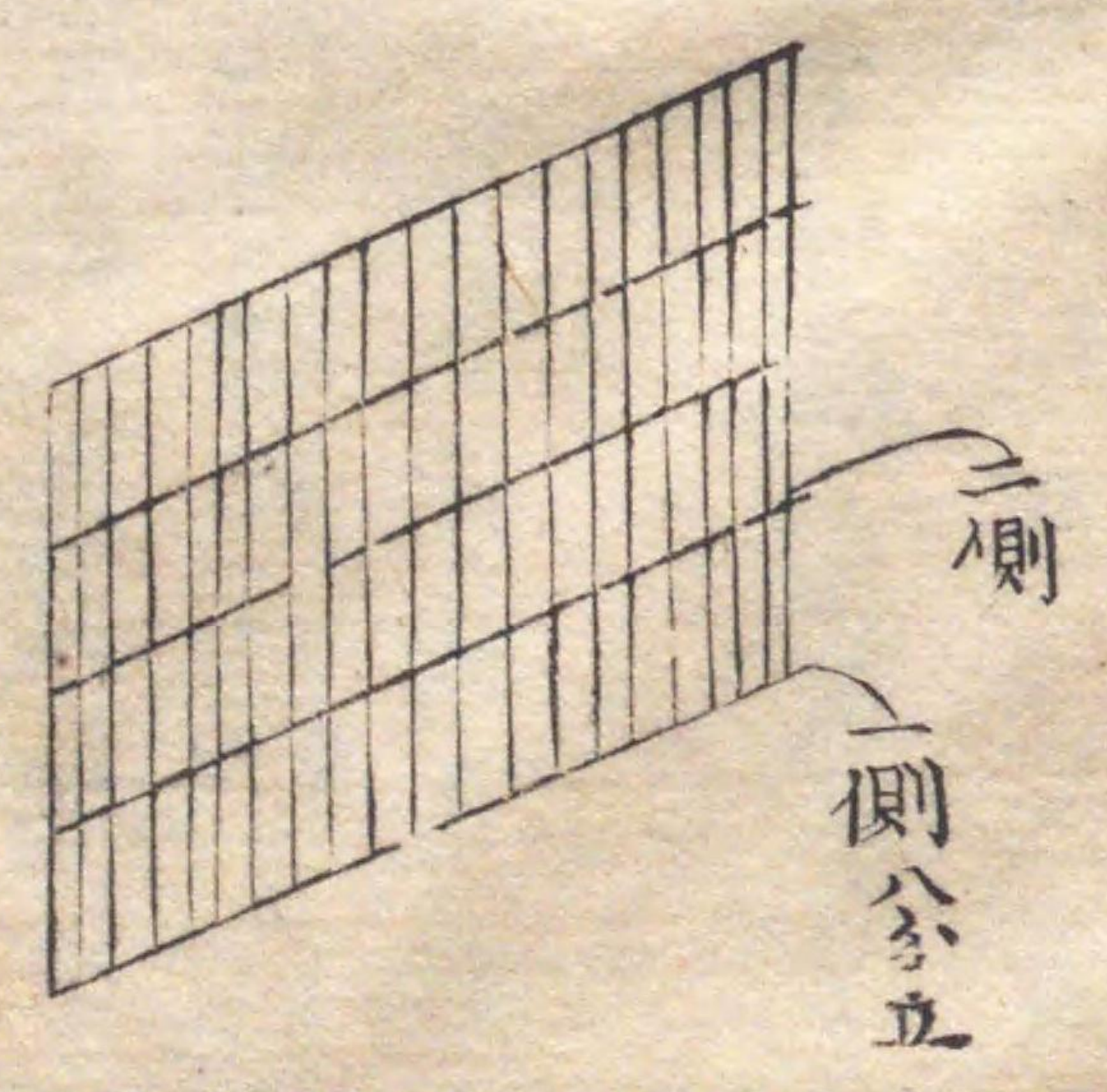
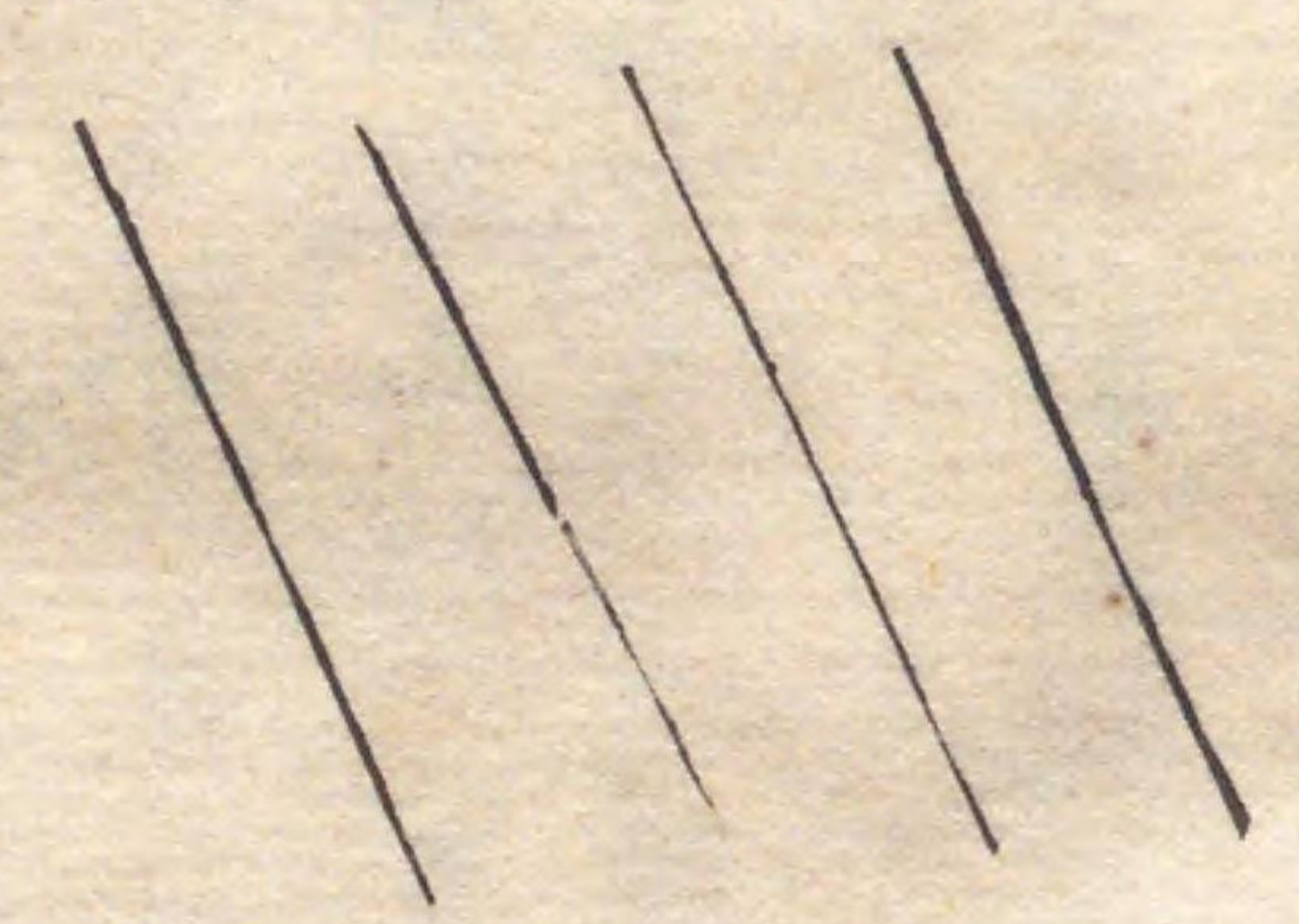
糸と云此馬糸へ豎糸を一目づ引貫き上の首へつる  
ぶ付る之右馬のを方九の如く此首の上より  
と云壺あり九二寸程の壺之此糸へ通糸と附る花様  
の鳥居の下に紋軸へ結附此通糸へ紋形を移し是  
を引ぬるをさうひさうひ横貫糸と横糸と云  
さうさ竹と云よ壺を付結ぶる此よて花紋顯れ  
あり

一通糸八百二十或八百三十位迄百七十八乃至三百  
位あり通糸數増せば花紋大きく成り減すれば細く  
成る又八十位の通糸もあり又屏風形をよれ通  
糸數少くしてよ雨降足よかまだ竹を仕る  
的ハ通糸數を多くをる

屏風形を方



雨降足を方



馬拭より下り糸のよの上へ豎糸を引通る  
一目へ四ッ入る糸筋からよともよ五本ある  
因からよ糸一筋を除去する上糸下糸四本を  
同よよの上へ引通る此よの糸は幾よと數程  
有るあり但幾二十よみあればよの數千二百ある



一 箴四十目と一よと云也

一 馬掛の二あるあり是より一並あり是と一例二  
かると云大方六かゝ位あり六を發紋から多れ七  
例又、八例も分つあり上の花接して通糸と引  
けり馬掛上る也花紋と段くは糸を此通一糸と引  
上れハ箴元の糸上へ上り横の糸下とくり摺繰とを  
る但し横糸斗花紋と成り表へ出堅糸ハ裏へ廻る  
於此時よからこの糸表と残り花紋の横糸とが  
を織物の裏と方上と成り表と方下と成りて  
織ると知るべし

一 横経糸ハ五十一糸百二十本ある其間と横と箴をよ  
も分ちてすなり引時の横経糸と境と引あり一本  
二本とりつ横経へもあり又十本二十本も分けたる

横経糸もわり横経糸ハ引次ぎよ下へ引とある其時  
あ方の篠の二ありて下へあるあり

一 紋通糸二まゝと花紋と固て横経多き時ハ又並一  
二を揃へるべし

一 紋通糸一枚と横経糸敷地ハ一をよ積りて百五十  
本位まで夫より多き時ハ紋と付る時忘ぶる付て

一 糸と揃へて横経糸此二枚と巧むなり是地ハの  
横一杼宛と横経糸百五十の積りよて三色あるハ横  
経糸四百五十筋入る形と大概此紋とかさりとする  
一 馬糸ハ帯と堅糸より五分程つうひ下りて釣り仕  
立るなり四例と時外の側ハ馬糸つり上る形と首  
糸と長短ありて馬糸と揃るなり

一 いや竹八百八十本いや糸八百八十筋馬糸八百



八十筋首系長方四百四十筋同經方四百四十筋  
筋頭二百二十通糸二百二十に折返して四百  
四十横經糸ハ花紋次第あり右ハ花機より田  
糸の教あり前文と見合せ知るべし

一 首系長經より量ハ先經首より申二通り馬糸と  
つり其後長首より尺ハ一二巾試みて後より尺を定  
むべし此亦より考あるべしに傳

一 花紋ハ初より紙より可織模様を繪うきたとへも三  
十よりの歳多れハ五糸百二十巾と定三十よりの  
歳数を内より割付何付より歳巾とある厚き紙ハ公  
筋より尺より繪うきたる模様を写し糸の長より不  
然と見て拾ふあり

一 花紋拾方ハ一寸より横糸百折入る積みより歳七十

枚多れば一寸より付堅三十又横五十の罝を引てト  
繪を合せて星を附へし是ハ罝一ツの中より星四  
付部より如は是正より星と云あり若し罝細く星  
つらきハ下繪を大きくして織り張りの別を考る  
と増繪う法と云之是ハ何程より別合を以て大  
と小と取るあり横糸三色五色より織時ハ地糸一拵  
と増貫ハ歳柄も通るといふて紋を仕立べし是を  
附し時より色より付分ると拾ふより但し皆  
色附垂水繪具より滌方よりと可知之

一 紋形拾う傳糸を二尺半の臺へ歳半も存る白罝  
より合せ引張り垂白罝の筋頭見合て横より糸を  
以て此糸ハ則横經糸より張垂たる糸ハ則通  
糸より成る如此より考ると歳半も合するあり紺



形を合すと同道理あり是拾方の口幅ありを横糸の割合又紋の合せ方皆糸く口幅めるべし

一紋拾の紋取の通し糸長さ曲尺三尺二百二十筋横徑ハ一尺宛あり

一井筒く中へをる篠竹ハ十二本ハ六本ハ十二本の上下は下はさるむ十二本と六本の篠の各一寸

四五寸六本の篠を一例二例と云を方ハ糸記す如く兩路足と屏風の二品あり皆其花紋の依て昇を定る之

細布名号

一錦ハ又唐錦とも云平金糸ハ五色の糸を入る上品はと色数多く入る地合ハかき地あり

一金襦ハ縹子地より平金糸より至て細あるを織るあり

一金の位よりつて止中下あり

一倭錦ハ堅地より色糸を織りからる多裏ハ海

一綺ハ俗に糸帯と云平綾より金糸を織不入して色糸をよりて織と云此織方より花紋の細きと

莫臣爾綴ト云

一唐織ハ一名より錦と云糸ハ種々の色を織込むか、之系より地からるより地は一柄は幾柄も色数は

幅いつまひ柄と通し裏ハ皆飛糸と成処よりこの如く厚く見ゆる像之名付る之地合ハ縹子地又か

地或ハぬり地より縹る横の色糸ハねりぐり糸ハ一本縹錦ハ地合平綾より二重堅横ハ何色も本縹系堅糸ハ縹めて糸縹の如く織る



一 毘夷錦ハ極細き捻金糸より金銀二色織リ彩色色をつくして種く色敷と織る地合ハ縹子ふて模様の細ハ表より透死の織のから糸まし地堅糸ふて表よりから糸ハ飛糸あり上品ハ地一拵く内の捻金二拵宛織るあり

一 厚板ハ地合平綾疋泊ふして糸錦の如く引絞めて織る又堅地も織るを二重堅から糸あり

一 衲錦ハ堅横の糸共の捻糸ふて五色又色をついて織る地合ハ席地あり故の堅糸ハ不見して横糸ハ縫取し其模様を織るあり舟の帆木綿の地と衲地あり

一 縹子ハ縹子地よりして深糸より織るをから糸なく地うらしあり二重縹子ハ常の縹子の紋の廻りと又介

拵と一拵通し外色を織込故の二重の糸あり尤同にハ拵と二拵通すあり

一 縹子ハ縹子地よりしてから糸なく紋とハ地堅よりしてかくむあり

一 八糸ハ縹子の紋を不引して織ると云

一 縹珍ハ縹子地よりして伏機を紋と引し紋の外上上飛糸あり但し二丁拵四丁拵ある時は紋外より糸を織る時は先に引しる紋の糸より横糸あり

一 光絹素袖 諸繒 縹紗 四岳 皆平綾あり

又加伊岐古波久波加多柳條 絹袖 八丈絹 絹布 葛布 芭蕉布 木綿布 小倉木綿 真柳條

類皆平綾あり



一紗精好生絹羅 此類皆平綾織る

一魚子ハ地合の名あり平綾の踏をよて織る

一羅紗ハ平綾よて毛糸と織る

一天鵲絨ハ編子地よて別よ毛糸と織る 金花山

織ハ捻金糸よ色糸と交て織り毛と不切あり

右ノ外織物の名目新古數多ク皆同物よて少の模様の遠ひ等よて名目と付或ハ新渡の唐物せよて考出の類若干あり要書記するよいとまわらに故畧之

織物地合ノ名号

一堅地と云ハ本機六枚伏機六枚之綾取よて踏竹

ハ六本之一二二五三六と両足踏あり

一ぬり地と云ハ本機ふぐせ八枚宛踏竹八本之一二七

二五八三六と片足踏あり

一小柳地と云ハ本機ふぐせ六枚之踏竹六本あり踏

方ハ一二二五三六と片足よて踏あり

一綾杉地と云ハ本機ふぐせ四枚宛よて踏竹四本一二三

四三二一と踏あり

一魚子地といきむとふぐせに投宛よて踏竹四本一二三

四と両足よて踏あり

一細代地といハ本機伏機に投宛よて一二一三三三三三

踏竹四本を両足よて踏あり

一小菱地ハ本機ふぐせ六枚宛踏竹六本よて一二二六

三五一二三五二六一二と両足よて踏あり

一孺子地ハ本機ふぐせ五枚宛踏竹五本よて一三五

二二と片足よて踏あり



一平綾ハ木機ふぐせニ投宛よて踏竹ニ本ヤ片足よて  
一本ヤ踏あり

右織物ク地合ハハ九品の外ありり其品よ  
寄て地合ハハ九品の中せめて織て花紋ヤ引て  
横糸よて彩色する花紋の仕方或ハ花紋の大小  
又ハ金糸の入不入或ハ平金糸捻金糸のをさ細  
さ等よて織物の名目著り又花紋の踏懸よて織  
るの品めり妻曲ハハ傳あり

機織景編卷之三終



